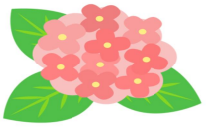
令和七年六月十六日　第二十二号

まめびと

岩國白蛇神社崇敬会会報

◎今年（一～五月）に斎行された祭典と行事



【月次祭】令和七年
〈一月〉十二日・二十四日
〈二月〉五日・十七日
〈三月〉一日・二十五日
〈四月〉六日・三十日
〈五月〉十二日・二十四日

※六年度月次祭への参列延べ人数四二〇名

【一月】令和六年度
歳旦祭（一日二名）・元始祭（三日四名）

【二月】
節分祭（二日四十四名）・紀元節祭（十一日十四名）
祈年祭（十七日十八名）・天長祭（二十三日十二名）

【四月】令和七年度
昭和祭（二十九日十名）
会計監査（十九日三名）

【五月】
第十五回総代会（十七日十三名）

【例祭】十三年祭

令和六年十二月十六日、守川総代長以下十名の総代に、森橋崇敬会会長、吉川事務所・岩国商工会議所代表等、およそ五十名の参列者が拝殿に待機するなか、参進太鼓の合図で宮司以下四名の祭員が入場し祭典が開始されました。

修祓、宮司一拝、御扉開扉、献饌、祝詞奏上、奉納舞、玉串拝礼、撤饌、御扉閉扉、宮司一拝、閉式の辞、宮司挨拶、崇敬会会長挨拶と恙なく祭典は終了しました。宮司からは巳年を迎へるに当たり、数多の初詣が予想されるので、万全の準備を行ひ、参拝に来られる方もお迎へする地域の方も互ひに気持ちよく新年を迎へられるやうに準備を怠りなく進めて生きたい旨の話がありました。

上の写真は宮司の祝詞奏上時の拝礼の様子です。

【節分祭】二月二日　午後三時

氷雨のそぼ降る中、約四十名の参列を得て節分祭が斎行されました。巳年の今年は例年になくたくさんの参列があり、数名の方には参列をお断りするほどでありました。祝詞奏上に続き、拝礼後には「福豆」を授与しました。その間斎主は四方への豆撒き神事を行ひました。参列者も境内にて待機し、四名の巳年生まれの方に豆撒きのお手伝ひをして頂きました。参列した方々を始め数多の人々の無病息災を願ふばかりでありました。

拝殿回廊からたくさんの福豆やお菓子が撒かれました。

【第十五回神社総代会】

五月十七日、当神社崇敬会会長森橋宏之氏を来賓としてお招きし、全総代十九名中十二名の総代の出席を得て、第十五回総代会が開催されました。

平田宮司と森橋会長挨拶の後、宮司が議長を務め、議事が進められました。

令和六年度の祭典・行事・会計の報告がされ、末川責任役員から監査報告が行はれました。

続いて、今年度の祭典・行事の予定と、予算の報告がされました。

尚、今年は巳年といふことで、初詣をはじめ例年の数倍もの参詣者があり、特に駐車場については、近隣の方にはご迷惑をおかけすることになりましたが、大型連休の時には、近くの空き地をご好意により借りすることができ助けられました。

ここに深く感謝を申し上げる次第です。

※右の写真は臨時にお借りした駐車場の入口です。

（神社までは徒歩三分余りの所）

【社報で推薦した図書一覧】

令和六年十二月～令和七年六月

○『戦うことは「悪」ですか』
～サムライが消えた武士道の国で、いま私たちがなすべきこと～　葛城奈海 著

○『国防の禁句』
～防衛「チーム安倍」が封印を解く～　岩田清文・島田和久・武居智久 著

○『間違いだらけの家族観』
～儒教で読み解く老い・父性・夫婦・死～　加地伸行 著

○『零戦　最後の証言』　神立尚紀 著

○『皇室論』
～なぜ天皇は男系でなければならないのか～　竹内久美子 著

○『価値観の侵略から日本の子どもを守る』　近藤倫子 著

○『宮司の経営』
～ビジネスパーソンに伝えたい神職のわたしが得た仕事の知見～　田川伊吹 著

○『世界は利権で動いている』　島田洋一 著

【神社崇敬会の活動予定】

○ 令和七年度の会計監査
六月二十四日（火）十時から

○ 令和七年度役員会
七月五日（土）十時から

《今年度の寄進は・・・》

今年度の崇敬会から神社への寄進については、七月五日の役員会にて決定されますが、今年は昭和改元より百年を迎へる年であり、また、戦後八十年といふ節目の年でもあることから、その節目にふさはしい記念となるものを候補として考へてゐます。

崇敬者数

〈令和7年6月末現在〉

350個人と23法人

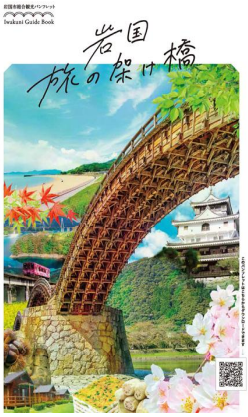
計;373

令和6年度の会計報告は12月発行の23号に掲載します。

当神社は氏子の居ない崇敬神社です。

新入会員の増員にご協力をお願ひいたします。入会された方には神社札・記念品・会則・会報等が送付されます。尚、会員の方のみお守り等の郵送をしてをります。電話等にてお申し出ください。

［岩国市総合観光パンフレット］



当神社の社務所にても配布してをります。

令和七年度岩國白蛇神社祭典・行事予定

【四月】
六日(日)月次祭、三十日(水)月次祭、
二十九日(火)昭和祭

【五月】
十二日(月)月次祭、十七日(土)総代会、
二十四日(土)月次祭

【六月】
五日(木)月次祭、二十九日(日)月次祭、
三十日(月)夏越し大祓

【七月】
十一日(金)月次祭、五日(土)崇敬会役員会
二十三日(水)月次祭

【八月】
三日(日)大掃除、四日(月)月次祭、
十六日(金)白蛇供養祭
二十八日(木)月次祭

【九月】
九日(火)月次祭、二十一日(日)月次祭

【十月】
三日(金)月次祭、四日(土)マウス供養祭・
岩国白蛇保存会設立七十年記念奉告祭
十七日(木)神宮神嘗奉祝祭
二十七日(月)月次祭

【十一月】
三日(月)明治祭、八日(土)月次祭、
二十日(木)月次祭、二十三日(日)新嘗祭

【十二月】
二日(火)月次祭、七日(日)大掃除、
十六日(火)例祭（十四年祭）
二十六日(金)月次祭
三十一日（水）年越し大祓
※二十七日（土）臨時巫女研修

《令和八年》午年（うまどし）

【一月】
一日(木)歳旦祭、
三日(土)元始祭、
七日(水)月次祭、
三十一日(土)月次祭

【二月】
三日(火)節分祭、十一日(火)紀元節祭、
十二日(木)月次祭、十七日(火)祈年祭
二十三日(月)天長節祭、二十四日（火）月次祭、

【三月】
八日(日)月次祭、二十日(金)月次祭

《白蛇にまつはる思ひ出》紹介

『地域に広がる白蛇の和』

幸田 禎浩 著
〈前岩国白蛇保存会副会長〉

ハアー
今津川下　其処彼方　神の化身の
蛇が棲む　目紅い　肌白く　お米蔵
から　這うて出る　象牙色した
白い蛇　やさしい姿　おとなしい
めでたい兆しと　郷人は　宝冠
白蛇　弁天と　祠に祀って
神酒捧ぐ　アリャーサー　コーリャー
ドッコイトナー

この詩は、毎年八月十五日に、今津山手町商工連盟主催による盆踊り大会で、私がいつも唄っている音頭である。

これは今津町五丁目にお住いだった故好本庄一さんの作による「今津めぐり」の中の一節である。

私はここ今津で生まれ、今津で育ってきた。記憶にはないが、「ハイハイ」をするころ、真っ黒い天井から何やら白いものが落ちてきて、そのぐにゃぐにゃするものを持って遊んでいると、母がびっくりして捕まえ、外に逃がしてやった。それが白蛇であったそうである。

いろいろな会合で自己紹介をするとき、私は努めて「今津川で産湯を使い、世界的にも有名な白蛇の生息地今津で育ちました」と言うようにしている。

今津山手町で商売を営んでいる商店主たち、特に白蛇に愛着を持っている「白蛇保存会」のお世話をしている者は、ほとんど今津山手町の人々だ。白蛇が商売の神様であり、お金が貯まると深く心の中に思っているからである。

保存会とともに、同じように「白蛇」の名を全国区にしようとする会に「白蛇保存会」がある。会員は三十数名だが二代目がいるくらい、もう二十数年も続いている。頼母子形式にして、毎月四六（しろく）の二十四日に集まり、一杯やりながら天下を論じ、大金持ちになった気分

歌謡教室「白蛇会」発表会パンフレット

に浸る。

今津山手町商工連盟の中から生まれたカラオケの会「歌謡教室白蛇」がある。先年「二十周年記念発表会」が岩国市民会館大ホールうで盛大に行われた。そのプログラムには、いつも松の枝に巻きついている白蛇が表紙を飾っている。

同じく、今津山手商工連盟より生まれたのが、「岩国白蛇シール」である。加盟店で百円買い物するごとに、桜に白蛇模様の入ったシールがもらえる。百二十枚を台紙に貼ってそれを持っていくと百円に換金でき、また旅行や景品が当たるくじ引きもあり、皆が楽しみに集めている。商連の半数近くが会員となり、もう数十年も続いている。（続く）

［平成十七年に刊行された白蛇保存会創立五十周年記念誌『白蛇をまもって』より］

伊勢の神宮（内宮）
参道へ渡る宇治橋

【第六十三回神宮式年遷宮】案内

伊勢の神宮の式年遷宮は令和十五年秋の最も重要な儀式「**遷御の儀**」に向け、本年より関連のお祭と行事が始まりました。

式年遷宮は二十年に一度、社殿や御装束・神宝をはじめ全てを新しくして、大御神に新宮へお遷りいただく神宮最大のお祭りです。

［令和七年五月　山口祭］

新宮の御用材を伐り出すに当たり、御杣山の山の口に坐す神に伐採と搬出の安全を祈ります。御杣山は時代とともに変遷し、現在は木曽（長野県・岐阜県）に定められてゐますが、山口祭は現在でも神路山、高倉山の山麓にて五月二日に行はれました。

［令和七年五月　木本祭］

御正殿の御床下に奉建する心御柱の御用材を伐採するにあたり、その木の本に坐す神を祀ります。古くより神秘の儀式とされ、今回は五月二日真夜中に行はれました。

神宮大麻（御札）は十一月から授与が始められます。

［令和七年六月御杣始祭］

御用材を木曽の御杣山で正式に伐り始めるお祭りです。最初に御樋代木と呼ばれる、御神体をお納めする御器を奉製するための檜を伐採します。御樋代木は御杣山の山中で左右に並ぶ二本の檜を選び、「三ツ緒伐」といふ古式の作法で伐り倒します。六月二日に斎行されました。

［令和七年六月　御樋代木奉曳式］

御杣山で伐採された御樋代のための御料木を、内宮と外宮の域内の五丈殿前に曳き入れる儀式です。伊勢に到着した御樋代木は、内宮・外宮とも古式のままに神域へ曳き入れられます。

［令和七年九月　御船代祭］

御樋代をお納めする器である「御船代」の御料木を伐採するお祭りです。内宮と外宮の宮域内に設けられた宮山祭場で行はれます。